



校訓 「たくましく 富士の岡に立つ子」

学校教育目標 「共に伸びる子」

重点目標 「みがく……みんなで がんばる くみあげる」

目指す子どもの姿
“友達とかかわりながら 自分を向上させようとする子”

- 知性をみがく子
 - ・授業が楽しい 95%
 - ・授業がわかる 95%

- 心身をみがく子
 - ・場に応じて黙動する 95%
 - ・進んで挨拶する 95%

- 感性をみがく子
 - ・自分のみがきがわかる 95%
 - ・自分のよさがわかる 95%

何ができるようになるか ○学校教育の基本（学校経営目標）

○子どもが来たくなる学校 ～子どもが主役で 活力ある学校～

学習をみがく学校

「主体的、対話的で深い学び」を目指し、子どもが「わかる」「楽しい」を実感できる

※基礎学力の習得、自分の考えを持ち伝える、「学年×10分」家庭学習、ICT機器の活用

生活をみがく学校

人とかかわりながらよりよく生きていくための素地や基礎体力を身に付けられる

※児童会による挨拶運動や「みがく貯金」の取組、黙動、JRC活動、読書活動の推進、朝運動の充実

感性（気づき）をみがく学校

「みがく」過程で得られた自分の成長を豊かな感性の下に感じ取り、自己有用感を向上できる

※「ありがとうの日」の取組、「学習」「生活」の定期的な振り返りと自己評価

何をどのように学ぶか

○教育課程の編成と実施

- ・全員参加でのカリキュラム・マネジメントを通しチームとしての機能を高める
- ・子どもが「見方・考え方」を働かせやすい学習課題や場面を設定できる授業を構築する
(すべての教育活動において、「聴く、伝える、つなげる学習」を意識させ資質・能力を培う)
- ・新学習指導要領先行実施に伴い、日課変更等により、特に道徳教育・外国語教育の充実を図る
- ・地域・家庭との連携・協働により「社会に開かれた教育課程」を地域の人的・物的資源を活用しながら実現する
- ・異年齢集団活動を設定し、自己有用感を培う

子どもの発達をどのように支援するか

○配慮を必要とする子どもへの指導

子どもはかけがえのない存在

- ・個に応じた指導展開(支援員の配置・ケース会議等)
- ・保護者との密な連携(教育相談)
- ・就学支援委員会の充実
- ・「学校いじめ防止基本方針」によるいじめの根絶

子どもの実態 (H30年度児童自己評価)

- ・授業が楽しい 90.7%
- ・授業がわかる 92.5%
- ・黙動すると気持ちよい 86.6%
- ・挨拶すると気持ちよい 90.9%
- ・家族で「みがく貯金」に取り組む 82.5%
- ・自分のよさがわかる(6年)91.5%



実施するために何が必要か ○指導体制の充実(幼保こ小中連携)、家庭・地域との連携・協働

○幼保こ小中の連携・接続(一貫教育研究)

- ・義務教育終了時に願う子どもの姿を幼保こ小中で共有し、指導の連携を図る

“豊かな心を育み自己実現を図ろうとする富士岡っ子”

- ・12年間の学びをつなぐ「シラバス」の活用
- ・研修交流(公開保育・授業公開)を実施し、お互いの教師力(系統的指導力等)を高める

○教職員の資質向上

- ・校外外における研修の充実
- ・機能するOJT等

教育指導センター

○家庭・地域との連携

- ・学校評議員やPTA、地区外郭団体等との連携を行う
- ・地域、家庭からの評価による教育活動の点検と改善を実施する(学校評価/年2回・学校関係者評価/年3回)
- ・外部と連携した訓練・体験による安全への主体的姿勢の涵養
(「富士岡っ子守る隊」等…交通安全・防災・防犯等)